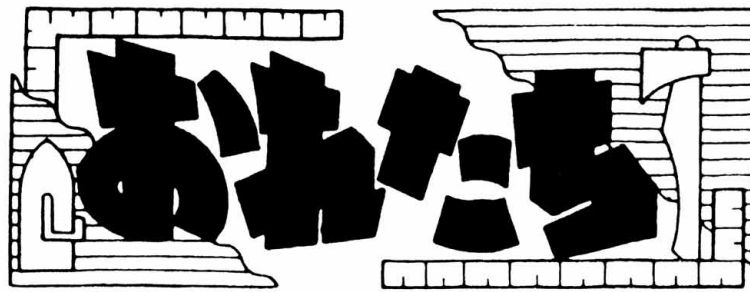


無料法律相談日の案内

10月15日(金)14時~16時

希望者は前日までに予約を

9月当初組合員数=1,907人(-12人)



発行所
東京土建一般労働組合荒川支部
東京都荒川区荒川6-3-1
TEL(3892)9131 FAX(3892)9381
発行者・津田宗久/編集長・増山國吉
http://www.doken-arakawa.org/

第2弾

沖縄戦を語り継ぐ

平和特集

WEB茶話会 中山きくさん(元白梅学徒隊)

命ある限り戦争の悲惨さを語り継ぐ

8月15日で第2次世界大戦の太平洋戦争終結から76年、国内で唯一の地上戦が沖縄戦です。戦争状態とは故無く破壊と殺略と恐怖と凄惨な状態の継続のことです。

沖縄住民がそのような状態に追い込まれたのは、1944(昭和19)年10月10日の那覇市大空襲から、日本陸軍第32軍司令官、牛島満が自決し、日本軍の組織的戦闘の終結した45(昭和20)年6月23日ごろまで続きました。

沖縄では毎年6月23日は「慰霊の日」と定められています。

取材 竹達浩記者//南千住分会

語り部の中山きくさん(92歳)は、県立第二高等女学校4年生の時に軍の要請で学校内に学徒隊が編成され、白梅学徒隊として45年3月6日第24師団第1野戦病院看護教育隊に入隊し看護補助要員教育を受けました。

しかし、戦況悪化による傷病兵の増加で人手不足となり、教育活動は18日間で中止され、新城分院の病院勤務に変更されました。野戦病院と言っても洞窟の中、軍医1人に衛生兵と看護婦たちが医療に従事、き



中山きくさん。1945年7月上旬投降、生還。戦後、教師として小学校に勤務。中山さんが戦争体験を語り始めたのは戦後50年がたってから。広島・長崎の被爆者の証言を聞いたことがきっかけだった

くさんたち学徒隊員の主な仕事は、食事の世話と空き缶を持つての排せ助でした。

学徒隊員たちが一生懸命に働いても患者が多く手が回らなく垂れ流しが続き、その上、傷病兵は2か月も着たままでシラミがびっしり、体臭と汚物の悪臭が院内(洞窟)に充満しました。

ある日きくさんは、八重瀬岳の本部壕に動員されました、本部壕には手術場があり、きくさんは照明係の一人としてロソクを両手に持ち、昼夜を問わず手術に立ち会わされました。

疲れは極限に達し、手術中にも立ち眠りになり、そのたびに軍靴で脛を蹴とばされることの繰り返しでした。手足の切断の時は一応麻酔をしていたが、量も少なく兵隊たちはみんな悲鳴

▼那覇市歴史博物館より



戦況悪化で日本軍の陣内から火炎を浴びた米軍戦車 1945/06/25



日本軍の壕に火炎をあびせる米軍の戦車=1945年6月25日(写真上)。県立第二高等女学校。二高女からは46人が、第24師団の野戦病院に動員され17人が亡くなった

身を伏せ、戦車の音を聞いてはくぼ地に身を伏せ、戦

きくさんは、「私の命の命の限り、悲惨な戦争を語り継ぐ」と語りました。

学徒隊に解散命令

6月4日、本部壕に集合させられて新城分院も閉鎖していききました。この時初めて「米軍が4月1日読谷

戦場をこまよう

村(よみたんそん)に上陸して」と本当の情報は1週間もすると米軍はここに来るので病院は閉鎖、全員解散の命令が出ました。

「私たちは軍と一緒

に行動したいといいました。判断で、ある者は南に、ある者は北に、特に軍が南に退却したので南に逃げる人が多かった」と話します。

北に逃げる途中至る所に死体があり、中でも火炎放射器で焼き殺された死体は丸焦げで、内臓がガスで充満して丸くなっていました。そのような環境で精神的に弱っていた時、見知らぬ兵隊からあなた方は民間人だから米軍に投降しなさいと諭されて出ていきました。



津田宗久 背景

強大な組織こそ闘いの前進に

秋の拡大月間 力を合わせて突破を

あるからこそできます。1人で出来ないこともみんな協力して闘う、これが組合です。また、多くの仲間と知り合え、労働安全や仕事確保の取り組み、税制の民主化、資格と技能講習、共済制度など、1人1人が土建組合に入っていて良かったと思われ、組織にしていけることが大事です。組合員のみなさんが運動に参加してもらおうことも大切です。仲間の繋がりの深い下町ならではの荒川支部を築いていくためにも、秋の拡大目標達成と2000人支部の早期回復は不可欠です。役員一堂前線で奮闘して参ります。組合員のみなさんもありとあらゆる周りの仲間への声掛けや紹介を宜しくお願い致します。力を合わせて、何としても秋の拡大月間を突破しましょう。執行委員長 津田宗久



コロナ禍が追い打ち 電車賃が払えない、ローンが返済できない

今回のフードバンクには25人のボランティアが携わっていました。開始の1時間前には、チラシやSNSなどでフードバンクの開催を知った、120人の方たちがおよそ70分に渡って列をつくっていました。シルバークラフトに腰かけていたお年寄り、赤ちゃんを背負って子どもを連れていた若いお母さんなど年齢層もまちまちでした。

8月29日午後1時から「第6回練馬・光が丘たすけあいフードバンク」が練馬・光が丘見大橋下で行われました。新日本婦人の会光が丘21班、東京保健生協光が丘支部、日本民主青年同盟練馬地区委員会の共催です。編集部ではコロナ禍で一層深刻化する格差と貧困の実態取材しました。文・写真 並木義男記者 荒川分会

広がる格差と貧困 生存権の否定 政治の責任重大

練馬・光が丘たすけあいフードバンク 取材

先頭に並んでいた70歳代の女性は「今朝は10時前にここに来ました。年金だけでは大変ですから」と話します。パンクラデッシュ出身だと話す子連れの夫婦は「主人が勤めていた職場がコロナで倒産して仕事がなくなりしました。この場所は知人に教わって主人と来ました」と話していました。

「ここに来る女性の中には高坂由紀江さん。『たすけあいフードバンク』と相互協力してきた高坂さんにも話を聞くことができました。『ここに来る女性の中には高坂由紀江さん。『たすけあいフードバンク』と相互協力してきた高坂さんにも話を聞くことができました。』」

フードバンクを訪問する人々は、あくまでも氷山の一角に過ぎません。政治が憲法で保障されている生存権を否定し、規制緩和、非正規切り、「自助」、自己責任などを押し進めてきた責任は重大です。

四役・常任研修会

事業主との対話こそ 後継者世代の結集へ



【大橋正博通信員】事業所分会

また、支部の特徴として、区内在住者が非常に多く、9つの地域分会で区内在住者は970人と全体の62.3%を占めており、都心部に近い支部でありながら屈指の居住率を誇っています。

【大橋正博通信員】事業所分会 8月8日、荒川支部で支部四役・常任執行委員研修会が開催。北川本部書記次長と沼口常任中央執行委員が講師でした。

これは、組合が地域貢献を積極的に進めていけば、地域社会での社会的地位の向上だけでなく、未組織従事者の組織化にもつながることが話されました。

原水禁大会ヒロシマデー集会

核のない平和な世界を

核戦争は治療不可能な末期の病だ

【相楽由美子通信員】ザ・レディ・ス荒川 8月6日、けんせつプラザ東京で原水禁大会

ヒロシマデー集会オンライン視聴会に参加しました。昨年同様、今年もコロナの影響により、広島に行く事は出来ません

訃報

■植村 邦夫さん

7月13日死去 享年85 (西尾久・電気信号)

○1973年10月加入
○88年～91年 執行委員
○92年～2001年 分会書記長
○02年～05年 分会長
○08年～19年 財政部員



■大金 英明さん

8月13日死去 享年86 (西尾久・左官)

○1973年5月加入
○83年～89年 厚生文化部員
○90年～2016年 税金対策部員(26年間)、群長・群会計を歴任
お二人のご冥福をお祈り申し上げます。



感染拡大は菅政権の人災 臨時国会開け 戦争させない・9条壊すな! 総がかり行動

【堀井一 記者】日暮里1分会 8月19日、戦争させない・9条壊すな! 総がかり行動実行委員会「臨時国会ただちに開け! オリパ強行でなく、いのちと暮らしを最優先に! 憲法改悪反対! 菅政権退陣! 議員会館前行動」を行い、衆院第二議員会館前に300人、支部から3人が参加しました。

野党から連帯の挨拶があり、日本共産党の山添拓参院議員は「感染拡大はやるべきことをやらない菅政権の人災だ。総選挙で野党の新しい政権に変えよう」と訴えました。